発行：福生市生活環境部
協働推進課

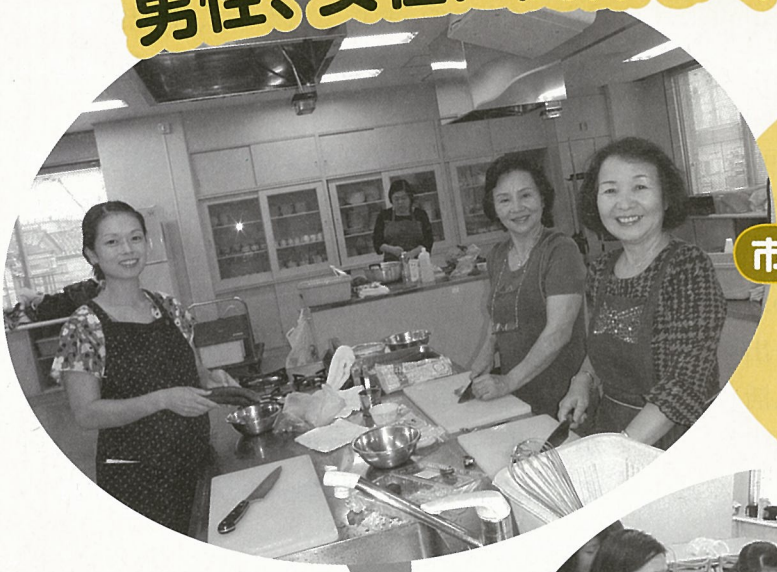
❖男女共同参画情報誌❖

あなたとわたし

手をつなぎ　足もとしっかり　良い社会

vol.34
2010.12月上旬号

男性、女性に関係なく食は大切なこと



楽しく作って
美味しく食べようよ！

市民サークルわいわいキッチン

食は男女関係なく人間にとって大切なことです。
今回は、食を通して「わいわい」できるまちづくりを目指して活動している、市民活動団体「わいわいキッチン」のメンバーの方にお話を伺いました。

目の不自由な方への情報ツールとして開発された二次元シンボル「ＳＰコード」を掲載しています。専用の読み取り装置を使って、今号の内容を要約した文字情報を音声で聞くことができます。専用の読み取り装置は市内の公共施設９か所に設置しています。くわしくは協働推進課へお問合せください。

食から広がる世界

福生市在住　大森　絵美子さん
家族構成　４人
（夫と本人、子ども２人）

わいわいキッチンの成り立ち

黒沢：平成16年４月から福祉センターの調理室を使ってランチをみんなで作ってみんなで食べるというのが会の始まりです。はじめの１年は３ヶ月に１回、現在は月1回活動しています。そして平成20年に食育講座をしてみたいと思って市の市民活動団体事業支援補助金の申請をしました。それがきっかけで、ランチの会からもう少し広い範囲をカバー出来る市民活動団体として、「食育」のことも考え活動を広げていきました。

“わいわいランチ”を通しての広がり

大森：“わいわいランチ”は、どうせお昼一人で食べるなら、みんなで食べた方がいいよねという気持ちから始めました。参加者が、私はこれが食べたい、あれが食べたいという感じでメニューを決めています。一品でも得意な料理があればそれを教えてもらう、という事で誰でも先生になっていただいています。料理の作り方だけでなく、コミュニティを大切にしたいと思っています。

どんな方が参加されていますか？

大森：いろいろな年代の方が参加されています。お子さん連れで参加している方もいらっしゃいます。今までは限られた野菜しか使っていなかったけど、参加してから野菜料理のレパートリーが広がってきた、という声を聞きました。みんなで食卓を囲むと、子どもは苦手な野菜でもすごく食べてくれます。

黒沢：８月の夏休みの時期は子ども料理教室をしています。今年は高校生が2人参加し、ニコニコミートローフを作りました。他にもご夫婦、一人暮らしの男性などが参加しています。これからは、育児休業中の男性「イクメン」も参加してくれるといいな、と思います。

大森：あと、地元のお豆腐屋さんに講師として来ていただいた時もありました。わいわいキッチンは食を通じて地域の交流を深める事がテーマのひとつになっています。商店の方とも仲良くなって、話を聞くと、長年頑張ってきた事とか、地元のお客さんから得た情報を大切にし、商売に活かしているのだなとわかったり、いろいろこだわりがあって面白い。食といえども本当にいろいろな関わり方があるのですね。

食育講座の必要性

大森：今年の三月、福生第三中学校のランチルームで3年生120名を対象に、食育講座を行いました。パワーポイントを使って、世界と日本の食べ物の自給率から福生近隣の自給率、福生ではこんな農産物が採れて、JAがあるんだよといった事などを1時間目に話し、2時間目は農業委員会の方に来てもらい、昔の福生ではどんなものを食べ、どんな生活をしていたかを話してもらいました。

地産地消※と福生を結び付けて、福生にもこんなにいろいろな野菜があるから、たくさん食べて農業を支えていきましょうと話をしました。ほとんどの子が中学生までは福生で過ごします。自分の生まれ育った土地を大事にしていこうね、と卒業を目前にした生徒たちに話をしました。

終了後、子どもたちから感想やメッセージをもらいましたが、結構いろいろわかってもらえたようで、

福生市在住　黒沢泰子さん
家族構成　２人
（夫と本人）

※「地産地消」とは
「地元で生産されたものを地元で消費する」という意味。
○旬の食べ物を随時新鮮なうちに食べられる
○消費者と生産者の距離が近いため鮮度がよく野菜の栄養価が高い
○地域経済の活性化、地域への愛着につながる
○地域の伝統的食文化の維持と継承
○農水産物の輸送にかかるエネルギーを削減できるなど、
様々な期待が高まってきています。

よかったです。とても好評でした。

今後の夢

黒沢：年配のご夫婦だと食事がめんどうになってしまう事があるらしいんですが、かといって外食には抵抗がある世代らしく、だんだん質素な食事になってしまうので、高齢者が気軽に外食を楽しめるところを、自分たちで出来ないかなあと思ってます。普通の家庭で食べられているようなもので、添加物のない、バランスの良い食事が出来るところ。食事して、ちょっと周りの人や店の人と話したり、夫婦でも、一人でも気軽に行ける「町の気軽なレストラン」そんな場所が地域にいくつもあるといいですよね。

大森：そうですね。そこでは高齢者の見守りをしながらお弁当の配食をしたり、レストランとして食事するところもあったり、子育て中のお母さん、お父さんたちの手助けも出来たりする。いろんな人が食べにきて「元気だった？」と顔を合わせられる憩いの場所、町のコミュニティの場所が出来たらいいなあと思います。

家族で食を考える

大森：食はとても大切なものです。食で体が出来るし、生活が出来ていく。食べ方が悪いと病気にもなります。自分の食べるものは自分で作る、ということは基本です。男性、女性に関係なく食事は大切なんだ、という意識を持ってほしいし、食ってなんだろうという事を子どもも、男性も考えていただきたい。男性だって将来、妻を介護するって事もあり得ますからね。

黒沢：食事作りや家事ってすごく簡単そうで単純な事と思われがちですが、実は頭を使う、すごい仕事。これからは男性の主夫力ってポイントかも。家族一丸でどんな時代でも生きられるようにしておかないと。子どもも自分で作る力をつけないと。親が早く仕事に行くため、朝食の用意がないというなら自分で作って食べたらいい。卵かけごはんみたいな簡単なものでいいのです。食べるって行為を自分でするのが大切ですね。

大森：わいわいキッチンの活動を通していろんな事がわかってきました。先の食育講座の他、小学校でのお料理教室、市の環境フェスティバルへの参加など広範囲な関わりをさせていただいています。広がる事で自分たちも豊かになる。食とコミュニケーションというところに焦点をあてたのが良かったのかもしれません。

本日はありがとうございました。

わいわいキッチン　http://waiwai-kitchen.com/

目の不自由な方への情報ツールとして開発された二次元シンボル「ＳＰコード」を掲載しています。専用の読み取り装置を使って、**今号の４面記事「ジェンダーって何のこと？」**の文字情報を音声で聞くことができます。専用の読み取り装置は市内の公共施設９か所に設置しています。くわしくは協働推進課へお問合せください。

ジェンダーってなんのこと？

東京学芸大学 教育学部 准教授　中澤智恵

私たちに染みついてしまっている、「男」「女」という２つの性別に分けて考えてしまう考え方のことです。たとえば、職場に、リーダーシップがあって頼りがいのある女性がいたとして、「女のくせに、でしゃばって、男をあごで使うとは！」なんていう発言を耳にしたことはありませんか？逆に、とてもおとなしくて、決断力が乏しい男性に対して、「男のくせに、頼りない。しっかりしなさいよ！」なんて心の中でつぶやいていたりしませんか？これらは、「女性なら素直に男性の言うとおり従うべきだ」「男性なら、組織の上に立って、指示・命令を出していくものだ」など、性別で望ましい人間像が異なるところから生じており、その望ましさから外れると、社会的評価が低くなってしまいます。

例は、ほかにもたくさんあげられます。料理の上手な女性は、「いいお嫁さんになるねぇ」とほめられたり、「料理はできて当然」と思われたりするのに、料理の上手な男性は、「嫁さんの尻に敷かれて、こき使われるんじゃないの？」とけなされたり、逆に「男性なのにすごい！」と驚かれたりします。同じ「料理上手」ということなのに、女性か男性かで、周りの見方が全然違ったものになります。ジェンダーには、「男性は外で働き、女性は家事・育児をする」という固定的な性別役割分業も含まれていて、性別によって個人の自由な生き方や能力発揮を制限するものとして、社会的に改める必要があると考えられるようになってきました。

「女のくせに」「男のくせに」って思うことはありませんか？自分や身の周りにある「女・男のくせに」チェックをして、ふだん見逃してしまっているジェンダーの問題を見つけてみましょう。

ご存知ですか？男女共同参画情報コーナー

輝き市民サポートセンター（福生駅西口プチギャラリー４階）に各区市町村の情報誌や男女共同参画に関する資料を備えています。ご利用ください。

問合せ：輝き市民サポートセンター　電話 042-551-0166

市民編集員 募集中

「あなたとわたし」の編集員を募集しています。興味のある方は、協働推進課までご連絡ください。

ご意見・ご要望をお気軽にお寄せください。

本誌は、市民がつくる市民のための情報誌です。感想をはじめ、特集で取り上げてほしいテーマなど、ご意見・ご要望をお気軽にお寄せください。市ホームページ（トップページ左側の市民のご意見箱）からもお送りいただけます。

広告掲載スペース

市民編集員　○興水和代　○寺﨑敏枝　○濱原幸恵

企画編集　NPO法人 NAFA子育て環境支援センター

あなたとわたし vol.34　2010年12月上旬号
発行：福生市 生活環境部 協働推進課
〒197-8501 東京都福生市本町５番地　電話 042-551-1590
http://www.city.fussa.tokyo.jp/

再生紙を使用しています　PRINTED WITH SOYINK